

研究分野と教員紹介 (薬学研究科)

臨床ゲノム薬理・分子薬物動態学



のうねん しんぺい

南 畝 晋 平

准教授

✉ nonen@hyo-med.ac.jp

研究分野 臨床ゲノム薬理・分子薬物動態学

研究テーマ

精神疾患治療薬の効果発現の個人差を予測し得るバイオマーカー（遺伝子多型、DNAメチル化、miRNAなど）を探索し、個別適正化医療の確立を目指した研究を行っています。また、エクソソームを含む細胞外小胞をバイオマーカーに応用する研究も行っていきます。

資格 薬剤師

- » 博士(薬学)
- » 大阪大学大学院 薬学研究科 博士前期課程 修了

・受験希望者へのメッセージ
医療機関との共同で研究を進めており、臨床現場に還元できる研究を目指しています。



たから こうじ

高 良 恒 史

准教授

✉ ko-takara@hyo-med.ac.jp

研究分野 臨床ゲノム薬理・分子薬物動態学

研究テーマ

癌の化学療法では、癌細胞が抗癌剤に対して抵抗性を示す耐性が認められ、臨床上の重要な課題の一つです。これらを解決するために、抗癌剤に対する耐性化メカニズムの解析並びに耐性化の回復方法について研究しています。また、抗癌剤の効き具合に影響する因子についても検討し、より安全で効果的な抗癌剤の使い方について研究しています。

資格 薬剤師

- » 博士(医学)
- » 神戸大学大学院 医学研究科 博士課程 修了

・受験希望者へのメッセージ
上記テーマに限らず、臨床における癌化学療法（または薬物療法）での課題について、基礎研究を通してエビデンスを構築し、臨床に還元したいと考えている方をサポートしたいと思います。

天然薬物学



あおき しゅんじ

青 木 俊 二

教授

✉ aoki@hyo-med.ac.jp

研究分野 天然薬物学

研究テーマ

1.天然資源からの医薬品シーズの探索
薬用植物や海洋生物などの天然資源から活性試験を行い、医薬品シーズ化合物の探索を行っています。(抗がん活性物質、鎮痛活性物質など)
2.生薬の科学的品質評価
現状、経験に頼っている「生薬」の品質評価に、科学的指標を構築する研究です。

資格 薬剤師

- » 博士(薬学)
- » 大阪大学大学院 薬学研究科 博士課程 修了

・受験希望者へのメッセージ
本研究テーマでは、化学的な知識と生物学的な知識の両者を必要とします。どちらの分野にも興味がある学生さんが希望されることが望ましいです。



い わ お か え み こ

岩岡 恵実子

講師

[✉ miiwaoka@hyo-med.ac.jp](mailto:miiwaoka@hyo-med.ac.jp)

研究分野 天然薬物学

研究テーマ

- ・天然資源からの新しい生物活性物質の探索
- ・生薬の主活性成分の解明
- ・生薬の品質評価法の開発

資格 薬剤師

- ≫ 博士(薬学)
- ≫ 武庫川女子大学 薬学研究科
修士課程 修了

・受験希望者へのメッセージ

成分の抽出分離だけではなく、抗がん作用、鎮痛作用、血流改善作用、美白に関する生物活性試験なども行います。

応用医療薬学



ふ じ の ひ で き

藤野 秀樹

教授

[✉ h-fujino@hyo-med.ac.jp](mailto:h-fujino@hyo-med.ac.jp)

研究分野 応用医療薬学

研究テーマ

薬物動態パラメーターから併用に伴う薬物相互作用の頻度や程度を定量的に予測する研究を行っています。血中濃度が変化する要因を解明して薬物動態の予測が可能な薬物相互作用シミュレーターを開発し、薬剤の適正使用を促す研究をめざしています。

資格 第一種放射線取扱主任者、第一種作業環境測定士

- ≫ 博士(工学)
- ≫ 群馬大学大学院 工学研究科
博士前期課程 修了

・受験希望者へのメッセージ

大学院における研究は多様性が求められます。基礎研究をさまざまな視野で捉えるとともに、臨床を予見できる研究者になって欲しいです。



き の し た あ つ し

木下 淳

准教授

[✉ at-kinoshita@hyo-med.ac.jp](mailto:at-kinoshita@hyo-med.ac.jp)

研究分野 応用医療薬学

研究テーマ

社会における薬剤師の役割や社会が薬剤師に求めているニーズに関する研究を進めています。具体的には、在宅医療における多職種連携、地域の健康サポート薬局による地域住民を対象とした活動の効果などについて、データマイニング手法を用いて解析し、これからの薬剤師が果たすべき役割について検討しています。

資格 薬剤師

- ≫ 博士(薬学)
- ≫ 城西大学大学院 薬学研究科
修士課程 修了

・受験希望者へのメッセージ

研究遂行にあたり、さまざまな医療機関、職域団体と連携をしていきます。データ解析では、さまざまな統計手法を用います。統計学に苦手意識を持っている方もおられるかもしれませんが、丁寧に説明させていただきます。



うえだ ひろき

上田 寛樹

講師

✉ ueda@hyo-med.ac.jp

研究分野 応用医療薬学

研究テーマ 薬物をより使用しやすくするための剤形・DDS、再生医療用材料を生体材料学の観点から研究しています。また、医薬品の品質や適性使用に関して、材料学や物理化学的検討を行っています。

資格 第一種放射線取扱主任者

- » 博士(医学)、修士(工学)
- » 京都大学大学院 医学研究科 博士後期課程 修了

・受験希望者へのメッセージ

医薬品は薬効をもつ主剤だけでなく、様々な添加剤を併用することで適正に使用できる剤形となります。そうした医薬品の適正使用や新規剤形の研究開発には、薬理学など薬学専門的理解に加え、化学・物理・生物などの幅広い基礎科学からの考察・理解が必要です。大学院では是非みなさんの臨床・専門から学んでこられた経験を活かし、これら広い分野の科学を結びつけた研究をしていただきたいと思います。



むらかみ まさひろ

村上 雅裕

講師

✉ aoyui@hyo-med.ac.jp

研究分野 応用医療薬学

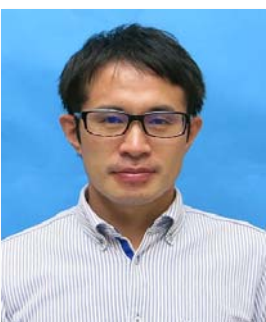
研究テーマ 医薬品の製剤学的評価研究を行っています。具体的には「薬剤師に求められるプラズマの情報提供」として、外用剤の使用性など添付文書には未記載の製品特性を比較検討し、患者のニーズに合わせた製品選択に有用となる情報の提供を行っています。

資格 薬剤師

- » 博士(薬科学)
- » 近畿大学大学院 薬学研究科 博士後期課程 修了

・受験希望者へのメッセージ

臨床現場にフィードバックできるような研究を進めています。学会発表や論文作成などの経験がない場合でも丁寧に指導いたします。



いとう さとやす

伊藤 都裕

講師

✉ ito-s@hyo-med.ac.jp

研究分野 応用医療薬学

研究テーマ 薬剤師は日常の業務の中で疑問を感じる場合があります。このような薬剤師の疑問を解決する為に、当分野では、薬理学的な手法を用いながら、臨床現場での問題点を基礎研究で解明、対処法を提案し、臨床現場へと還元する「リバース・トランスレーショナルリサーチ」を実践しています。

資格 薬剤師

- » 博士(医学)
- » 奈良県立医科大学大学院 医学研究科 博士後期課程 修了

・受験希望者へのメッセージ

「気軽に研究しよう！」をモットーに、臨床と基礎研究の橋渡しとなるような研究を行っています。臨床現場での日常業務で疑問に感じたことを、研究出来るようサポートします。



たなか としゆき

田中 稔之 教授

✉ tanaka@hyo-med.ac.jp

研究分野 免疫制御学

研究テーマ

- 自然免疫シグナルによる抗腫瘍免疫チェックポイントの制御に関する研究
- 免疫抑制性がん縮小環境の形成とその制御に関する研究
- がん幹細胞の同定とその免疫学的な制御に関する研究

資格 薬剤師

- ≫ 博士(薬学)
- ≫ 東北大学大学院 薬学研究科
博士課程 修了

・受験希望者へのメッセージ

がんや慢性炎症を克服するための新しい免疫制御法の開発をめざした研究を指導します。免疫学や関連する細胞生物学・分子生物学などの手法を用いた研究の立案・実施と研究成果の論文発表等に必要能力を養います。



うえだ はるやす

上田 晴康 教授

✉ ueda-ph@hyo-med.ac.jp

研究分野 免疫制御学

研究テーマ

炎症は、複数の生体反応が複雑に関わる生体防御反応の一つであり、様々なメディエーターが関与しています。その中でもサイトカインの果たす役割は大きく、サイトカインを制御することによって、炎症性疾患における病態のコントロールも可能と考えます。兵庫医科大学先端医学研究所生体防御部門に在籍中は、主にインターロイキン(IL)-18の生理作用に関する研究を行ってきました。現在は、IL-18を含めその他のサイトカインの生理作用と炎症性疾患の病態との関連について研究を行っています。

資格 薬剤師

- ≫ 博士(薬学)
- ≫ 徳島大学大学院 薬学研究科
博士後期課程 修了

・受験希望者へのメッセージ

本学大学院の講師陣には、医師、薬剤師をはじめとして、製薬会社出身者も多数在籍しており、医療現場ですぐに役に立つ薬学的知識や技術を習得するために必要な人的・物的リソースが揃っています。



おおの よしや

大野 喜也 准教授

✉ y.ohno@hyo-med.ac.jp

研究分野 免疫制御学

研究テーマ

- 1, がんに対する新しい免疫療法の開発
- 2, 炎症性疾患など免疫難病と自然免疫細胞に関する研究 など

資格 薬剤師

- ≫ 博士(薬学)
- ≫ 近畿大学大学院 薬学研究科
博士後期課程 修了

・受験希望者へのメッセージ

癌や難治性免疫疾患の制御を目指して研究活動を行っています。免疫・がん・炎症などに興味があり、意欲のある方の参加をお待ちしています。



おおかわら ともみ

大河原 知水 教授

✉ biochook@hyo-med.ac.jp

研究分野 レドックス生物学

研究テーマ

活性酸素を健康作りに活用するための研究です。活性酸素分子種は生体に酸化ストレスをもたらすのみならず、シグナル分子として細胞内情報伝達に関与し、生体の調節機構に重要な役割を担っています。分子生物学的手法を用いて変異を導入した組み換え形タンパク質を作製し、一次構造と酵素の分布に関する知見を積み重ね、活性酸素代謝を作用点とする創薬への応用をめざしています。

資格 医師

- » 博士(医学)
- » 大阪大学大学院 医学研究科
単位取得満期退学

・受験希望者へのメッセージ

分子生物学的手法を用いて、新しい現象を探求します。自ら見つけて学ぶことを繰り返し、臨床応用への接点を探る挑戦を手助けをします。



みうら だいさく

三浦 大作 准教授

✉ d_miura@hyo-med.ac.jp

研究分野 レドックス生物学

研究テーマ

①ギャップ結合、トランスポーターを中心とした組織内薬物輸送通路の研究
②急性腎障害時に発現変動する遺伝子の探索
分子生物学的手法を利用して、病態の解明や治療の基礎となる知見を得るための研究を行なっています。

資格 獣医師

- » 博士(医学)
- » 大阪府立大学 農学部獣医学科
修了

・受験希望者へのメッセージ

分子生物学的手法を利用した、薬物有害反応のメカニズム研究や、診断薬・治療薬の礎となる遺伝子発現の変動に興味がある方はどなたでも歓迎します。



こぶち しゅうへい

小渕 修平 講師

✉ kobuchi-s@hyo-med.ac.jp

研究分野 レドックス生物学

研究テーマ

①慢性腎臓病における心腎症候群に関する研究
心腎症候群を仲介する主要な因子である血管内皮障害メカニズムに着目して研究を行っております。
②急性腎障害から慢性腎臓病に移行するメカニズムに関する研究
新しい実験動物モデルの作成に取り組んでいます。

資格 薬剤師

- » 博士(医学)
- » 大阪薬科大学大学院 薬学研究科
博士前期課程 修了

・受験希望者へのメッセージ

動物を用いた基礎研究になります。動物の扱いに慣れていらっしゃる方が好ましいですが、初心者でも丁寧に指導します。薬理学的解析をもとに慢性腎臓病における心血管障害の新しい治療薬を探求します。



やまもと さとし

山本 悟史

教授

✉ syamamoto@hyo-med.ac.jp

研究分野 神経病態制御学

研究テーマ

①痛覚伝達系における疼痛関連受容体の機能調節に関する研究 / ②慢性難治性疼痛発生と治療の分子メカニズム解明に関する研究 / ③慢性難治性疼痛に対するシース探索に関する研究 / ④虚血性神経障害の病態解析と治療法開発に関する研究 / ⑤神経伝達障害の病態解析と認知症治療法開発に関する研究

資格

医師、麻酔科標榜医

- » 博士(医学)
- » 久留米大学大学院 医学研究科 博士課程 修了

・受験希望者へのメッセージ

慢性難治性疼痛や虚血性神経障害などの神経系における病態について、電気生理学的手法等を用いて発生機序を解明するとともに、薬物による病態制御法の開発と臨床応用に向けてのシース探索を行います。



きたなか じゅんいち

北中 純一

准教授

✉ kitanaka@hyo-med.ac.jp

研究分野 神経病態制御学

研究テーマ

①乱用薬物及び関連物質の有害作用解析に関する研究
②乱用薬物による危害影響予測のための基礎研究
③薬物依存の治療法開発に関する研究

資格

薬剤師・公益財団法人日本薬剤師研修センター認定薬剤師

- » 博士(薬学) (大阪大学)
- » 博士(医学) (兵庫医科大学)
- » 大阪大学大学院薬学研究科修了

・受験希望者へのメッセージ

乱用薬物の有害作用発現メカニズム、有害作用の個体差を予測する因子の探索、そして薬物依存の治療を目標とした薬物療法や行動療法の開発を実験動物を用いて研究しています。兵庫医大医学部をはじめ国内外の大学や政府研究機関との共同研究を通じて成果を発表・発信しています。古典的な依存薬物から新奇な危険ドラッグまで薬物乱用は大きな社会問題であり、メリハリを付けて真摯に研究に向き合ってくれる方を歓迎します。



やまなか ひろき

山中 博樹

准教授

✉ yamanaka@hyo-med.ac.jp

研究分野 神経病態制御学

研究テーマ

●難治性疼痛の慢性化のメカニズム
●脊髄後角の可塑的变化
●末梢神経損傷後の中枢神経グリア細胞の変化
●嫌悪情報の受容・伝達機構
上記のテーマについて、特に神経の形態変化をもたらす動的な可塑性に着目して形態学的なアプローチを基に研究しています。

資格

鍼灸師

- » 博士(医学)
- » 奈良先端大学院大学 バイオサイエンス研究科 修士課程 修了

・受験希望者へのメッセージ

Curiosityをベースにして研究を考えて行く姿勢を大事にしています。痛みなどの嫌悪情報の神経機構について興味のある方の参加をお待ちしております。



たなか こういち

田中 康一

講師

✉ koh-tanaka@hyo-med.ac.jp

研究分野 神経病態制御学

研究テーマ

- ・ グリア細胞を標的とした新規脳機能改善薬の開発
- ・ DNA障害・修復過程におけるヌクレオシド輸送体の機能調節に関する研究
- ・ 神経-グリア相互連関に関する研究
- ・ 認知症・脳虚血障害の病態解析と治療法に関する研究

資格

- » 博士(歯学)
- » 大阪大学大学院 薬学研究科 修士課程 修了

・受験希望者へのメッセージ

中枢神経障害のメカニズムについて薬理学的手法等を用いて解明し、障害修復に関わる薬物開発を行っています。



おおたに さち

大谷 佐知

講師

✉ sachik@hyo-med.ac.jp

研究分野 神経病態制御学

研究テーマ

- 視床下部神経内分泌ニューロンによる生殖機能制御機構の解明
- 炎症による神経内分泌ニューロンの病態発生機序に関する基礎的研究
- 炎症時の神経内分泌ニューロンの新たな役割の探索

資格

- » 博士(獣医学)
- » 大阪府立大学大学院 農学生命科学研究科 博士課程 修了

・受験希望者へのメッセージ

実験動物や培養細胞を用いた実験系により、生体制御における『ニューロン』と『ホルモン』の役割の解明し、病態の発生機序や疾患の治療に結びつく知見を得ることを目標に研究活動を行っています。神経内分泌学に興味のある方の参加をお待ちしております。

医薬品化学



みやべ ひでと

宮部 豪人

教授

✉ miyabe@hyo-med.ac.jp

研究分野 医薬品化学

研究テーマ

医薬品開発とその基盤新技術の構築をめざして、有機化学的・物理化学的手法や方法論を駆使して、合成化学、触媒化学、医薬品開発を高度化・効率化するための薬学研究を行います。ラジカルやアラインのような高反応性の化学種を制御し、環境に優しい合成法を開拓する研究などに取り組んでいます。ラジカル反応の制御と触媒化研究、酸化還元を融合した光触媒反応の開拓、アライン化学を基盤とした機能性分子の開発、生物活性化合物の合成と新規医薬品シーズの創出、環境調和型カスケード合成反応の開発などの研究を展開しています。

資格

- » 博士(薬学)
- » 大阪大学大学院 薬学研究科 博士課程 修了

・受験希望者へのメッセージ

研究者や大学教員をめざす学生だけでなく、化学に強くなりたい薬剤師も歓迎します。



こうたに しげる

甲谷 繁

教授

✉ kohtani@hyo-med.ac.jp

研究分野 医薬品化学

研究テーマ

研究テーマは「光触媒とナノ材料による機能性物質の創製」です。これらの機能性材料がいずれ病気の予防・診断・治療、および、医療環境の改善に役立つことを夢見て日夜研究に励んでいます。例として、多孔質の光触媒を開発して汚染物質を分解する環境応用や、新規な希土類ナノ結晶を創製して医療への応用をめざします。

資格 薬剤師

- » 博士(理学)
- » 東京工業大学大学院 総合理工学研究科 修士課程 修了

・受験希望者へのメッセージ

薬剤師は科学者です。したがって、科学的根拠に基づく事実を積み上げ、仮説を立て、立証していく論理的な思考法を身につける必要があります。当研究室では、このような科学的な思考力をもつ薬剤師を育て上げます。



つかもと こうじ

塚本 効司

准教授

✉ kotukamoto@hyo-med.ac.jp

研究分野 医薬品化学

研究テーマ

生体内分子および金属イオンの可視化計測を可能とする蛍光プローブの開発を行っています。各種生体内化学種の体内動態・機能メカニズムの解明や病気の診断に有用な実用的蛍光プローブを提供したいと考えています。また、蛍光プローブのベースとなる新規蛍光色素の開発にも取り組んでおり、特に生体内イメージングに有用な近赤外蛍光色素の開発を目指しています。

資格 薬剤師

- » 博士(薬学)
- » 大阪大学大学院 薬学研究科 博士課程 修了

・受験希望者へのメッセージ

有機合成や分光分析、生化学実験等を駆使して研究を進めますので、さまざまなことにチャレンジできる方を歓迎します。



よしおか えいと

吉岡 英斗

准教授

✉ e.yoshioka@hyo-med.ac.jp

研究分野 医薬品化学

研究テーマ

有機合成化学および計算化学を前提として、反応開発や医薬品等の生物活性物質、機能性分子の合成を研究テーマとしています。例えば、アラインの多成分連結反応の開発と反応中間体の探索および最安定構造解析、ラジカル反応と反応位置選択性や置換基効果の解析などです。このように、新規反応・機能性分子の開発や既存法の効率化などについて日夜研究しています。

資格 薬剤師、第1種放射線取扱主任者（合格）

- » 博士(薬学)
- » 大阪大学大学院 薬学研究科 博士後期課程 修了

・受験希望者へのメッセージ

薬学は、言葉の通り、薬から病気などの現象に迫る学問です。薬は化学物質であり、化学的視点が欠かせません。研究指向な方だけでなく、対人業務の重要性が増していく薬剤師にとっても化学的視点で論理的な思考および説明ができることは重要だと思います。上記研究の推進とともにそうした思考の養成を心掛けています。



やまおか ようすけ

山岡 庸介

講師

✉ yyamaoka@hyo-med.ac.jp

研究分野 医薬品化学

研究テーマ

我々の研究室では、効率的な医薬品や生体活性物質を合成するために、新規反応の開発を行っています。最近ではイナミドやイノラートといったアルキン誘導体を利用した反応の開発や、光反応を駆使した反応の開発を行っています。また、それらを応用し、これまでにならなかつた有用化合物の合成や生体活性の評価などにも取り組んでいます。

資格 甲種危険物取扱者

- 博士(薬学)
- 京都大学大学院 薬学研究科 博士課程 修了

・受験希望者へのメッセージ

薬学における有機化学は、有機化合物であるクスリを理解するために、非常に重要な学問です。有機合成実験を通じて、有機化学をさらに理解したい学生を歓迎します。

創薬化学



たなか あきと

田中 明人

教授

✉ tanaka-a@hyo-med.ac.jp

研究分野 創薬化学

研究テーマ

フェノタイプスクリーニングなどで見出されてきた作用メカニズム未知の生体活性物質や開発医薬品などの直接結合タンパク(創薬ターゲット)を独自開発したアフィニティ樹脂(AquaFirmus)などを用いて探索研究してきました。製薬会社の創薬部門にて培った創薬テーマに関するドラッグデザイン及び合成、薬理評価などもAMED支援を受けて行っています。

資格 薬剤師 情報処理1級

- 博士(薬学)
- 大阪大学大学院 薬学研究科 修士課程 修了

・受験希望者へのメッセージ (2023年度以降学生募集しません)

病気を治療するのは薬です。人々の健康に貢献できる研究を目指す方を歓迎します。

臨床医薬品化学



しみず ただし

清水 忠

教授

✉ shimizu-t@hyo-med.ac.jp

研究分野 臨床医薬品化学

研究テーマ

「臨床」における「医薬品」に対して、「化学」を基盤とした研究を行います。実験を中心としたWet研究、データ解析やアンケート調査を中心としたDry研究の両面での研究を行います。Wet研究では、ドラッグリポジショニング、既存薬をリード化合物とした探索合成研究を展開します。さらに、有機反応開発の研究も開始します。Dry研究では、た医薬品有害事象データベース研究を行っています。さらに、データベース解析から得られた情報を基にした臨床研究へと展開します。

資格

- 博士(理学)
- 北海道大学 大学院 理学研究科 博士課程 修了

・受験希望者へのメッセージ

2022年度から立ちあがった新しい研究分野となります。院生の希望を聞きながら、研究テーマおよび論文執筆計画を立てていきます。今後、病院や薬局においても、エビデンスの創出が求められます。当研究室では、社会人大学院生が博士を取得した後も臨床で研究を続け、論文執筆ができるように1~2年目は医学論文の評価とdry研究による論文執筆、3~4年目で院生の希望に応じて、臨床研究や基礎研究なども行えるように計画します。研究進捗の相談は、自宅や職場から必要な時に実施できるように、SlackやZOOMなどのツールを用いています。



ながの もとこ

長野 基子

教授

✉ nagano-fujii@hyo-med.ac.jp

研究分野 微生物・寄生体学

研究テーマ

私達の研究室では、①血液媒介性感染症および新興再興感染症を起こす病原微生物の感染機構の解析、②薬剤感受性/耐性獲得機構の解析、③病原微生物の遺伝子多様性が感染性や病原性、薬剤感受性に及ぼす影響に関する研究を微生物学的、分子生物学的、免疫学的手法を用いて行っています。感染症の新規検査法や診断法の開発をめざしています。

資格

- ≫ 博士(医学)
- ≫ 神戸大学大学院 医学研究科
博士課程 修了

・受験希望者へのメッセージ

21世紀の今も感染症は多くの人に健康被害をもたらし、大きな公衆衛生的問題となっています。私達の研究テーマに興味を持たれた方は、ご連絡ください。一緒に研究を進めていけたらと思います。



まえだ たくや

前田 拓也

教授

✉ maedat@hyo-med.ac.jp

研究分野 微生物制御学

研究テーマ

感染症や微生物汚染・微生物劣化を招く有害微生物を分離同定し、性状調査を行います。薬剤耐性を示す有害微生物については、その耐性機構を解明します。これらの情報を元に制御方法を提案、実施し、その効果を微生物学的、生化学的、分子生物学的手法で評価します。以上の評価結果に基づき新規微生物制御方法を開発します。

資格

- ≫ 博士(工学)
- ≫ 大阪大学大学院 工学研究科
博士後期課程 修了

・受験希望者へのメッセージ

当研究室を希望する方は、微生物学、分子生物学、抗菌試験などに関する基本的知識や手技を修得していることが望ましいですが、未修得でも、当研究室の研究に熱意を持って取り組んでみたい方には基礎から指導します。



たばた ちはる

田端 千春

教授

✉ ctabata@hyo-med.ac.jp

研究分野 呼吸器疾患病態治療学

研究テーマ

高齢化社会や喫煙・大気汚染・アスベスト曝露などの環境要因から、現代社会では肺がん・悪性中皮腫などの呼吸器悪性腫瘍、COPD・気管支喘息や難治性呼吸器疾患である間質性肺炎など多岐にわたる呼吸器疾患は、増加の一途にあります。それらの疾患の病態解明や新規治療法の確立をめざす研究を行います。

資格 医師

- ≫ 博士(医学)
- ≫ 京都大学大学院 医学研究科
修了

・受験希望者へのメッセージ

細胞やマウスなどの動物を用いた基礎研究や臨床研究を行い、研究能力を養成します。そしてその研究成果を学会発表や論文発表して、学位取得できるように指導いたします。